

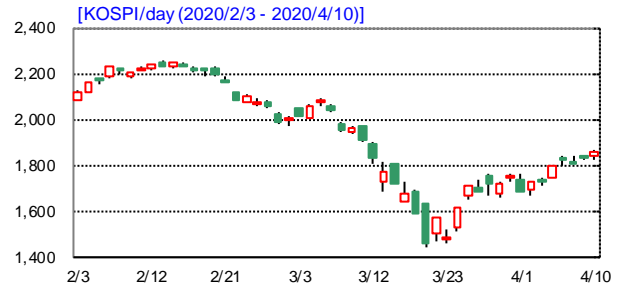


【韓国】 総合指数は週間で7.8%高と大幅に3週続伸、新型コロナ一服で買い優勢

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で7.8%高と大幅に3週続伸した。韓国国内での新型コロナウイルス感染拡大の一服を好感し、買い戻し優勢の展開。1日当たりの国内の新規感染者数が約1カ月半ぶりに50人を下回ったと伝わり、週明け6日は3.8%高と急伸。その後は利益確定売りで下げた8日を除き、連日で1%を超える上昇となった。サムスン電子や半導体のSKハイニックスなど主力ハイテク株が買われ、相場をけん引した。7日に約3週間ぶりに心理的節目の1800ポイントを回復。10日終値は3月11日以来、約1カ月ぶり高値を更新した。一方、韓国銀行（中央銀行）は9日に政策金利の据え置きを決定したが、市場の反応は限られた。今週は国内感染者数の減少傾向が続くかに注目。経済指標では貿易統計や雇用統計が発表される。

▼指数チャート

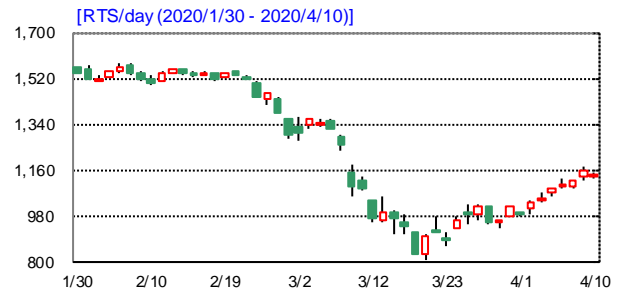


【ロシア】 RTS 指数は週間で8.8%高と大幅に3週続伸、今週は神経質な展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で8.8%高と大幅に3週続伸。新型コロナウイルスのピークアウト期待を背景とする欧米株の大幅高やOPECプラスでの減産協議の合意観測が支援となった。週明け6日はRTS指数が前営業日比3.2%高。新型コロナ感染者数の増加ペース鈍化を好感した欧米株高に加え、OPECプラスが大幅減産で合意するとの期待を受けた原油高が指数を押し上げた。その後もルーブル高を追い風に堅調に推移し、指数は9日まで6営業日続伸。10日は原油安を受けて反落したが、週間ベースで続伸したこの3週間の上昇率は23.6%に達した。個別では金融のズベルバンク・オブ・ロシア、資源のポリウス、MMCノリリスクニッケルが大幅高。今週は高値警戒感が強まる中、原油相場をにらんだ神経質な展開か。

▼指数チャート



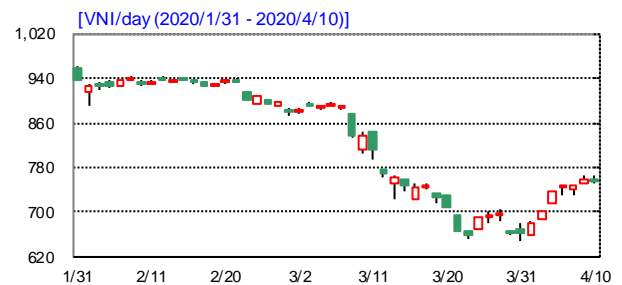
【ベトナム】 ベトナム指数は8.0%高と大幅続伸、今週も感染鈍化への期待が支援

か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で8.0%高と大幅に続伸。新型コロナウイルスの感染拡大が峠を越えるとの期待を背景に欧米株が大幅高となり、市場心理が改善した。週明け6日はVN指数が前営業日比で5.0%高と大幅に続伸。欧米で新型コロナ感染者数の増加ペースが鈍ったことで感染拡大のピークアウトへの期待が高まった。その後も欧米株の堅調を好感し、VN指数は結局9日まで7営業日続伸。10日は757.94ポイントで引け、3月13日以来の水準を回復した。個別では不動産のビンホームズ、食品加工のマサングループ、エネルギーのペトロベトナム・ガス、飲料のサイゴンビール・アルコール飲料が2桁高となり、指数を押し上げた。今週は新型コロナウイルス感染拡大の世界的なピークアウト期待が引き続き支援材料となるか。

▼指数チャート



【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.6%高、今週は中央銀行が金融政策決定会合を開催

ジャカルタ総合指数は4日間の取引で0.6%高と3週続伸。週初の上昇が指数を支えた。6日はトランプ米大統領が前日にニューヨーク州での新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着き始めた可能性に言及した効果で、前営業日比4.1%高と3日続伸。一方、7日は国内の1日当たりの新規感染者数が最多となった影響で反落すると、8日は政府がジャカルタでの大規模な行動制限を10日から実施する計画を承認したことで売られ、前日比3.2%安と続落した。9日は反発して連休前の取引を終えている。今週は14日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催するほか、15日には3月の貿易統計が発表される予定。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 7.6%高、追加の景気対策を好感

ストレーツタイムズ指数は4日間の取引で7.6%高と反発。週初の6日は、政府が新型コロナウイルス対策として36億米ドル規模の追加支出を発表した効果で金融株を中心に買われ、指数は前営業日比3.4%高と反発。前週末に発表された3月の製造業PMIは45.4と09年2月以来の最低水準に落ち込んだものの、影響は小さかった。7日は金融通貨庁が銀行の貸付条件を追加緩和したことが買い材料となり、前日比4.1%高。8日は反落したが、9日は反発して週の取引を終えた。今週は17日に3月の非石油地場輸出が発表される予定。外部要因では1-3月期のGDPを含む中国の経済指標が焦点になりそうだ。

▼指数チャート

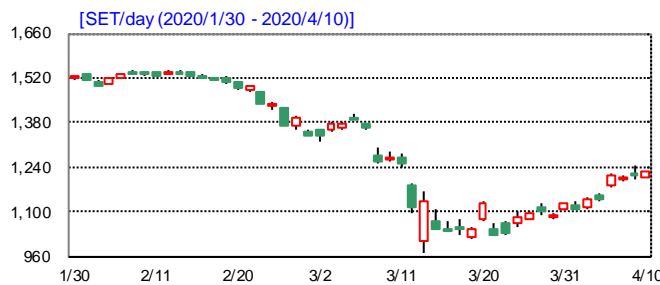


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET指数は 7.8%高、エネルギー株が指数上昇をけん引

SET指数は4日間の取引で7.8%高と続伸。1週間を通じて終値で1200ポイントを維持した。連休明けの7日は主要産油国で構成される「OPECプラス」の会合を9日に控え、減産合意に対する期待感から原油価格が反発し、エネルギー株が買われた。指数は前営業日比6.7%高と3日続伸。8日は反落したが、9日はカシコン銀行とサイアム商業銀行が貸出金利を引き下げたことが買い材料視されて反発した。10日は前日にOPECプラスが日産量1000バレルの減産に合意した効果で、前日比1.4%高と約1カ月ぶりの高値を更新して引けている。今週は国内の経済イベントが少なく、外部要因に左右される展開か。

▼指数チャート

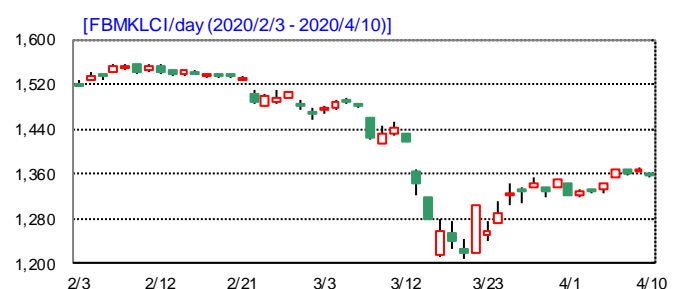


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 2.0%高、中小企業支援に100億リング注入

クアラルンプール総合指数は週間で2.0%高と反発。おおむね堅調に推移した。週初の6日は、ムヒディン首相が中小企業支援策として、100億リングの追加資金注入を発表した効果で指数は反発。7日も買い優勢の展開が続き、前日比2.1%高と続伸した。その後は8日に反落した後、9日は買い戻されたが、10日は前日にOPECプラスが合意した原油の減産量が不十分との見方が広がった上、国内の活動制限令が今月28日まで再延長された影響で反落して引けている。今週は13日に発表が遅れた2月の鉱工業生産に対する市場の反応に注目。NYダウの上昇傾向が続けば、株式相場の追い風になるとみられる。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。